　平常心を保てる心

西大和学園カリフォルニア校

平日校校長小倉佳恵

「100パーセントの効果があった」という表現にも用いられるように、100という数字には「満たされる」「完璧」などの意味があります。2015年の4月には89名でスタートした本校の小中学部ですが、2016年9月には100名の子どもたちが、小中学部で学ぶことになりました。もちろん、教育の価値は数値で表せるものではありませんが、100名の子どもたちに本校の小中学部を選んでいただいたことは大変光栄なことです。2学期から新たに編入なさった14名の附属幼稚園のご家庭と、10名の小中学部のご家庭に、「本年度の見せて魅せる教育」をご提供し、本校に通うすべての子供たちが「満たされる」学校を創り上げたていきたいと思います。

　さて、9月の始業式では子供たちに「平常心を保つことの大切さ」をお話しました。これは、夏に参加しました教員研修で、隣の席にいらした熊本県白川中学校の先生にお教えいただいたことです。4月14日に起きた熊本地震の直後より、白川中学校は避難所となり、新学期始まって早々学校生活が一変したそうです。そうした中、白川中学校の生徒たちは平常心を失わず、自分たちができることとして校内の掃除を黙々と続けたということです。お知り合いのかたが負傷なさったり、尊い命を失われたり、深い悲しみの中、気持ちを落ち着かせて「今できること」に集中した白川中学校の生徒たちは本当に素晴らしい、とお話を伺いながら感動しました。

学校教育で育む精神面の強さには「根気」「自己肯定感」「克己」などがありますが、「平常心」そのもののが「禅問答」を起源とすることからも、「不動の心」は東洋文化に根ざすものであります。日本の文化継承を大切にしている本校にとっても「平常心を保てる心」の育成は大切なことです。大きな危機で試される平常心ということではありませんが、2学期は行事が多い学期なので、子供たちの心が揺れ動くことが多々あると思います。9月下旬から始まる運動会練習、オープンハウスや本校交流での大勢の前での発表。これらの機会を通し、子どもたちが平常心を保ち、自分に与えられた役割を果たしていく力をつけるよう、教職員一同、支援していきたいと思います。最後になりましたが、2学期も様々な場面で、保護者の皆さまのご協力をお願いすることと思います。今後ともご家庭のご支援とご協力を賜りますよう、宜しくお願いいたします。

“A clear vision, backed by definite plans, gives you a tremendous feeling of confidence and personal power.” 　　　Brian Tracy